



夢



国籍	職種	インドネシア 介護
実習実施者 監理団体		社会福祉法人光生会 協同組合 ケアサポート瑞穂

ヌルアイニ NURAINI

私は、5人兄弟の3番目。

2番目の兄は、日本で働く夢を持っていた。

彼は、子供のころから日本が好きで、アニメやマンガに夢中であった。ある時、強い希望をもち、日本に行くためのプログラムに参加する事になった。6カ月間の日本語の勉強をして日本への旅立ちが決まった。でも、出発前の健康診断で病気がある事が分かった。彼の病気は肝炎で、治るには時間がかかるので、家族が心配して日本をあきらめさせてしまった。彼は、悲しい顔で家に帰ってきてから、何も話さなくなってしまった。2週間たち、彼の気持ちが落ち着いたときに、家族みんなで彼の夢がかなわなかった事を悲しんだ。

高校3年生の時、兄から「卒業したら日本で介護の仕事をしてみては？」と聞かれた。その時の私は介護について何も知らず、日本にも興味なかった。しかし、兄が日本のことや介護の事を色々と教えてくれた。長い間考えて、家族と離れたくないけれど、新しい事をやってみたいと思うようになっていた。それからは、好奇心で自分から日本の事を調べてどんどんあこがれが強くなっていった。日本で働く方法は、兄もいっしょに調べてくれた。その時私は、兄

の夢を私がいっしょにかなえるような気持ちが出来ていた。

高校卒業後、夢をかなえるため、8カ月間日本語を勉強をした。初めはとても難しくて文法や漢字だけじゃなくて、介護の言葉も覚えなければならなくて、諦めたいと思った。でも、家族の幸せのため、特になえられなかった兄の夢のためにがんばった。

その結果、日本語の資格N3を取ることを条件に奨学金のある管理団体に選んでもらうことができた。その後「日本人はどんな人かな？日本に住むことができるかな？」と想像をしながら時間が過ぎていった。

N3に合格して、日本へ出発が決まって間もなく、コロナウィルスの流行により日本の入国がストップしてしまったので、予定よりも8カ月おくれて出発になった。出発が近くなると嬉しい気持ちと悲しい気持ちが混じっていた。出発の時、兄がとても幸せそうな顔で送り出してくれた。それは、兄にとっても夢の達成の時だった。日本に着くと、すぐに兄に写真やビデオを送った。兄がとてもうれしそうに「いつか私も日本に行けるようにがんばります」と言っていた。日本に着いてから寂しく帰りたい気持ちが大きくなった時、兄から「日本に行きたい人は沢山いる。君はラッキーな人だから諦めないで。日本はいい国だよ。きっとだんだん慣れて来るよ」と応援してくれた。

いよいよ、群馬に着くと利用者さんと職員が花束をもって歓迎してくれた。今は、家族と遠く離れていても、群馬の優しい人たちがもう一つの家族と思える。

兄の日本への強い夢の理由は、今では私にもはっきりわかる。なぜなら、私自身の夢にもなってしまったから。